

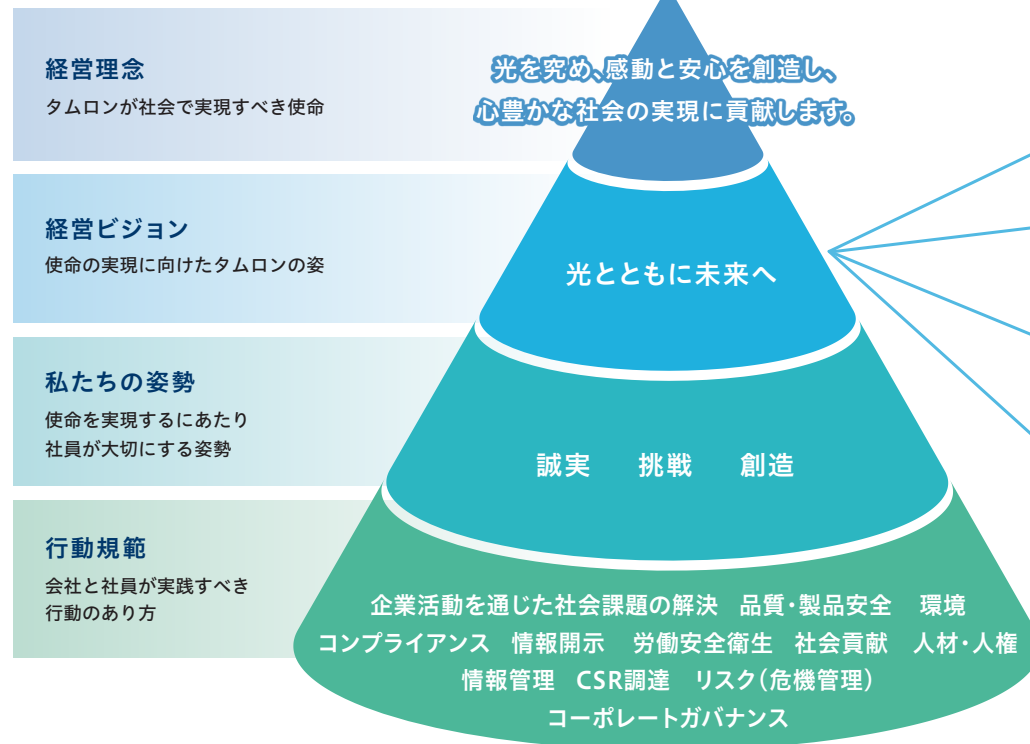
Focus on the Future

ブランドスローガン/ステートメント

タムロンが見つめているのは、未来です。

創業以来、積み重ねてきた光学の技術で光の新たな価値と使命を切り拓き、
未来の社会課題に立ち向かうことは光学のスペシャリストである、私たちの責任です。
「心豊かな社会」の実現に貢献するため、感動と安心を創造し、世界中へと届けていく。
私たちの挑戦はこれからも続きます。

経営理念体系



価値創造の歩み

2000年まで

創業から2000年までの歩み

1950年、タムロンは光学製品の研磨を請け負う業務からスタートしました。1957年には一眼レフカメラ用交換レンズの発売を開始。「タムキュー」と呼ばれて支持されたボケ味が柔らかいマクロレンズや、「高倍率ズームのパイオニア」と称されるほどの革新的な高倍率ズームレンズ群を開発し、写真業界に新たな撮影スタイルの提案をしてきました。一方、1990年代にはBtoB製品にも領域を拡大し、監視カメラ用レンズにおいては新しいスタンダード製品ともいえる「バリフォーカルレンズ」を業界に初めて導入し、市場の成長に貢献してきました。このように20世紀のタムロンは「写真」「セキュリティ」、この二つの領域で、それまでの常識を打ち破る画期的で市場に大きな価値を生み出す製品を送り出してきました。

企業動向

- 創業** 1950年
泰成光学機器製作所創業
- 1952年
泰成光学工業株式会社設立
- 1958年
タムロン商標登録
- 1969年
弘前工場建設
現在は青森工場(弘前サイト、浪岡サイトの2拠点)
- 1970年
「株式会社タムロン」に社名変更
- 1979年
アメリカに販売会社設立
- 1982年
西ドイツ(当時)に販売会社設立
- 1984年
日本証券業協会に店頭登録
動画の撮影と録画を一体化したカムコーダーがヒット。タムロンは高倍率と小型化を両立した光学ユニットを開発・供給。
- 1997年
中国に生産子会社設立
フィルムカメラ市場がピークを迎える。タムロンは高倍率ズームレンズの人気により、1998年に連結売上高200億円を突破。

技術の歴史

1950年 写真機用・双眼鏡用レンズの加工開始

創業メンバーは精密光学機器の研究開発経験を基に光学製品の将来性を確信し、光学製品の研磨などの精密加工を開始しました。



1953年 自社製品第1号の双眼鏡を発売

精密加工を通じて高度な技術と知見を結集させて、設計から生産まで一貫して自社で手掛けた「広視界双眼鏡7×35 11°」を発売しました。

1957年 一眼レフカメラ用交換レンズを発売開始

第1号機は「135mm F/4.5」という望遠レンズ。売れ筋の標準50mmではなく、当初から新しい市場、新しい価値を求める姿勢を発揮。しかもカメラとの接続部(マウント)を交換可能なシステムとし、マウント交換することで様々なメーカーのカメラで使用できる「Tマウント」という新たな利便性、新しい価値を創出しました。

※「Tマウント」は望遠鏡と様々なカメラの接続マウントとして現在も使用されているスタンダード規格となっています。



1979年 90mmマクロレンズを発売開始

従来のマクロレンズは「文献複写用のレンズ」として高解像で硬調な描写のレンズでした。タムロンはガウスタイプと呼ばれる中望遠レンズに採用される光学系をベースに、小さな被写体へしっかりと寄れる性能を実現。植物や花に近づいて柔らかな「ボケ味を楽しむ」という、全く新しいマクロ撮影の価値を市場に提示し、定着させました。その撮影範囲はネイチャーの枠を超えてポートレートにも及び、「ポートレートマクロ」と称されるほどになりました。また「タムロンの90ミリ」から「タムキュー」という愛称も与えられるほど、写真ファンからの支持は厚いものとなっています。



1986年 バリフォーカルレンズを初導入

監視カメラ市場では、安価な「単焦点レンズ」と、遠隔で画角調整をできる、高価な「電動ズームレンズ」の二極化が進んでいました。タムロンは「ズームレンズ」よりも光学的に簡易な設計で済む「バリフォーカルレンズ」を業界に初めて導入し、画角調整ができ、かつ安価で軽量・コンパクトな製品を発売しました。この「バリフォーカルレンズ」は監視カメラ業界の新しいスタンダードへと急成長するなど、業界に強いインパクトを与える全く新しい価値を生む製品群となりました。



1992年 高倍率ズームレンズを発売開始

高画質化と軽量・コンパクト化を実現する「複合非球面レンズ」を駆使した光学設計に加え、3段繰り出しのコンパクトボディでレンズエレメントを精緻にコントロールできる「トリプルカム構造」を開発することで、タムロンは「初めての実用的な高倍率ズームレンズ」を開発しました。レンズ交換の手間を省いたこのシリーズは、全く新しい顧客層を開拓し、「高倍率ズームレンズ」という新しいカテゴリーを創出、写真業界に大きな変革をもたらしました。この実績によりタムロンは現在も「高倍率ズームのパイオニア」と称され高い評価を得ています。



価値創造の歩み

21世紀

21世紀のタムロンは

これまで蓄積してきた「撮る」技術を深化させ、革新的な小径化を実現。「車載カメラ用レンズ」や「硬性内視鏡用レンズ」という新しい市場で、社会に貢献する、新たな価値を生む製品群を開発しました。一方、人の目では感知することができない「赤外線」の領域に踏み込み、水分、糖、タンパク質などの物質の含有量や、対象物の温度を「測る」技術まで進化させ、光学の可能性を飛躍的に拡大しました。タムロンは「撮るから測るへ」を合言葉にその製品領域を拡大し、次なるフェーズへ移行していきます。

2002年

デジタルカメラの出荷数がフィルムカメラを凌駕。タムロンはコンパクトデジタルカメラのレンズユニットを生産し、2003年に連結売上高500億円を突破。

2005年

中国に販売会社設立

2006年

東京証券取引所東証1部へ上場

2008年

車載用カメラの需要が拡大。タムロンは「リアビュー用レンズ」から参入し、より高品質な「センシング用レンズ」へと進展。

2012年

ベトナムに生産子会社設立

2015年

軽量・コンパクトなミラーレス一眼カメラの需要が高まる。タムロンもミラーレス一眼カメラ用交換レンズの開発を展開。

2022年

東京証券取引所プライム市場に移行

2024年

連結売上高が800億円を突破し、3期連続の過去最高益を達成。

2025年

ベトナム第2工場稼働

2003年 NIR対応監視カメラ用レンズを発売開始

人間の目では感知することができない「赤外線」の領域に踏み込んだタムロン初の製品。可視光線が届く環境では、通常のカラー画像を提供し、暗闇の中では「近赤外線」を照射し、対応可能なカメラで撮影すると対象者の安眠を確保しながらモノクロ画像での夜間の「見守り」を可能としています。NIRレンズは「可視光線」と「近赤外線」、この二つの光の波長の違いによるピントズレを修正し、24時間の見守り・監視を可能にしました。

2007年 独自の手ブレ補正機構「VC」を開発

手ブレ補正レンズを「3点」のマグネットで固定し、この3点の磁力の強弱で補正レンズを直接的に動かす独自の方式を開発。マグネットとコイルの間には小型ボールを配したことで摩擦低減による即応性が向上し、手ブレをしていた画面が「ピタッと貼りついたようだ」と、その補正効果に高い評価をいただきました。現在、この機構は写真事業を超えて他の用途にも横展開しています。



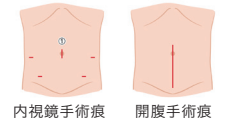
2008年 車載カメラ用レンズを生産開始

コンパクトデジタルカメラ用レンズの小型化技術を活かして後方確認用から始まり、現在は「自動運転」を推進するセンシング用レンズを生産しています。高い描写性能を維持しながら直径10mmという小径化を実現。それに加えて激しい振動や紫外線による劣化、そして外部環境120°Cにも耐えられる耐久性をも満たしています。次世代テクノロジー「自動運転」の精緻なる眼として活躍しています。



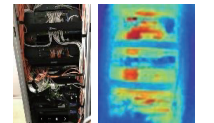
2018年 硬性内視鏡用レンズを生産開始

小さな孔から体内に挿入し、患部を撮影しながら外科手術を行うため、車載カメラ用レンズよりもさらに小さい、直径1~4mmもの超小径化と、殺菌温度140°Cにも耐える強度を達成。開腹を回避する内視鏡手術によって、患者の身体的負担を劇的に軽減しています。



2020年 遠赤外線カメラモジュールを発売

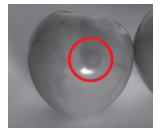
「遠赤外線」は「熱」として感知されます。そのため「遠赤外線」を透過するゲルマニウムやカルコゲナイトと呼ばれる特殊素材のレンズに、「遠赤外線」を感知する撮像素子を組み合わせたカメラモジュールを使って撮影することで、対象物の温度を非接触で「測る」ことができます。生物の発熱感知、機器の過熱感知、暗闇での監視等に活用されています。



設備・機器と熱感知の画面イメージ

2021年 SWIRレンズを発売開始

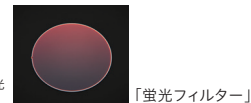
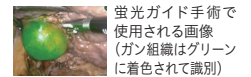
タムロンの技術方針、「撮る」から「測る」を体現する製品。約1,450nmと約1,900nmの波長を持つ「近赤外線」を照射し、このレンズを用いて専用のカメラ機材で撮影すると、その波長の「近赤外線」を水分が吸収するため、モニター上で黒く表示されます。この原理を利用して、糖、タンパク質、脂肪、コレステロール、アルコール、二酸化炭素、アンモニア、メタン等を可視化し、その量を「測る」ことができます。



打痕を負った果物は、水分が滲み出て、黒く表示される

2022年 蛍光ガイド手術用の蛍光フィルターを生産開始

ガン組織に試薬を与え、特定の波長の「近赤外線」を照射すると、ガン組織から別の波長の「近赤外線（蛍光）」が発光されます。他の赤外線は遮断し、この「蛍光」のみを透過することで、ガン組織を可視化することが可能となります。タムロンは蛍光ガイド手術の核となるこの高精度フィルターを生産することで、高度ガン治療に貢献しています。



「蛍光フィルター」

技術開発事例紹介 ▶ P32

ガン組織写真はメジカルビュー社「術中蛍光イメージング実践ガイド」から改変して掲載

タムロンは、「測る」プロセスで得られた情報を画像処理技術や高度な判断を可能にするAIと接続する(つなぐ)ことで、様々な問題を克服できる未来があると考えています。

来るべき未来においても私たちの製品が新しい価値を創造し、社会課題の解決に寄与することができるよう、「撮る」技術を究め、「測る」技術を磨いてまいります。

At a Glance

当社はレンズ専門メーカー唯一の上場企業であり、企画・研究開発からアフターサービスに至るまで自社で完結する一気通貫体制をグローバルに展開しています。独立系メーカーとしての柔軟な意思決定と、光学技術を基盤とした独自の技術力を活かし、画期的で最新鋭の光学製品を提供し続けています。

事業規模

事業セグメント

- 写真関連事業
- 監視 & FA関連事業
- モビリティ&ヘルスケア、その他事業



▶ P24

売上高

851 億円

営業利益

166 億円

※2025年実績・連結

海外売上高比率

81%

世界約70の国・地域で販売

※2025年実績・連結

従業員数

- 連結 4,977名
- 単体 950名

※2025年12月末

資本コストや株価を意識した経営

▶ P22

ROE (自己資本利益率)

14.0%

株主資本コスト
約7%を大きく上回る、
付加価値の高い経営を実践

ROIC (投下資本利益率)

13.4%

WACC(加重平均資本コスト)
約7%を大きく上回る
価値を創出

営業利益率

19.6%

高収益な事業構造により、
持続的な投資原資を確保

※2025年実績・連結

投資と還元を共に倍増:攻めのキャッシュアロケーション

▶ P20

キャッシュイン

845 億円



キャッシュアウト

- 研究開発 225 億円
- 設備投資 175 億円
- 戦略投資 180 億円
- 株主還元 265 億円

※2024-2026年累計

総還元性向

80%超

※2025年実績・連結

実績と確かな技術力

交換レンズ専門メーカーとして

世界シェア No.1*



※ OEM機種を含む

詳細はこちら <https://www.tamron.com/jp/technology/>

新領域を切り拓く、宇宙環境にも

適応する光学製品の技術



多様な知見の融合と働きやすさの追求

▶ P39

キャリア採用比率

54%



男性育児休業取得率

96%



有給休暇取得率

85%



※2025年実績

将来の目指す姿



長期ビジョン

長期目標
売上高
1,000億円
新規事業売上高
100億円

初年度から高い進捗により
『Value Creation26 ver2.0』へ
進化



中期経営計画
『Vision23』2021～2023

2023年実績
売上高 **714億円**
(計画比+104億円)
営業利益 **136億円**
(計画比+66億円)

中期経営計画
『Value Creation26 ver2.0』
2024～2026

2026年計画
売上高 **950億円**
(前中計(2023年)比+236億円)
営業利益 **205億円**
(前中計(2023年)比+69億円)

▶ P18

— 次期中計の考え方 —

“撮り、測り、つなぐ”技術の事業化、
2035年長期ビジョン実現へ
に向けた成長基盤の盤石化

- オーガニック/インオーガニック戦略の両輪での成長戦略に転換
- 新たな事業ポートフォリオ確立
- 新規事業の社会実装と収益化、事業開発体制の構築
- 経営管理手法の変革
- 戦略に連動した人的資本経営への進化

『Vision23』の成果、
課題克服、新たなチャレンジを
通じた質の高い飛躍、
企業価値最大化の実現

- 着実な既存事業成長と新規事業創出の加速
- 働きがいのある、企業価値の高い企業へ
- 事業ポートフォリオの変革
- 新規事業創出の加速
- 機能戦略の高度化
- 人的資本経営、健康経営の推進

- ポートフォリオ最適化
- 技術テーマの創出・育成
- 機能戦略の構築
- 人材育成・組織活性化

見えない世界を“撮り、測り、”課題解決へ“つなぐ” —
細胞や血液の状態など身体の情報撮り、測り、
医療・ヘルスケアの進化につなぐ。
森林や水質、大気の状態など生態系の変化を撮り、測り、
豊かな自然を取り戻すための活動につなぐ。
その実現に向けて、私たちは培ってきた光学技術と、
センシング・解析技術を融合させ、深化させていきます。

“つなぐ”とは、多様な価値が交わり、
新たな可能性が芽吹くことだと、私たちは考えます。
人と人、企業と企業、技術と感性、人と自然、
そして現在と未来を“つなぐ” —

私たちは、
総合光学・センシングソリューション企業として、
人と自然の健やかな共生と、喜びと感動にあふれ、
安心して暮らせる「心豊かな社会」を、
未来へ確かなにつなげていきます。

価値創造プロセス



タムロンは先進の光学技術を活かし、人々に「感動」と「安心」をもたらす製品を提供しています。これらの製品や事業活動による環境・社会・経済価値の創出を通じて、持続可能な社会・地球環境とともに、タムロン自身の持続的成長を実現していきます。

諸資本(インプット) ▶ P10

人的資本
組織活性化とイノベーション創出を実現する多様な人材

知的資本
自社の研究開発やアライアンスを通じて獲得した技術シーズや設計品質・業務効率化に資する技術の蓄積

社会関係資本
顧客、取引先、株主・投資家との協働による新たな価値の創出

製造資本
持続可能な生産供給体制

自然資本
事業活動拠点の周辺地域との共存と事業活動を行うためのエネルギー

財務資本
盤石な財務基盤と資源配分の原資

経営理念

光を究め、感動と安心を創造し、心豊かな社会の実現に貢献します。

**事業活動と諸資本の活用
ビジネスモデル**

企画・研究開発
製品開発
調達
製造
販売
アフターサービス

自社一貫通貫体制 ▶ P09

世界3極生産体制 ▶ P33

ガバナンス機能 ▶ P43

マテリアリティ ▶ P12
経営の重要課題

外部環境
ビジネスモデルの変化、地政学的リスク、気候変動対応、ESG投資の活性化、人権の尊重、ワークスタイル・ライフスタイルの変化、情報セキュリティリスク

アウトプット

価値を創出する領域

家電 セキュリティ 工業
モビリティ 医療

写真関連事業 ▶ P25
カメラ用交換レンズ等

監視 & FA関連事業 ▶ P27
監視カメラ用レンズ・FA/マシンビジョン用レンズ等

モビリティ&ヘルスケア、その他事業 ▶ P29
車載カメラ用レンズ・硬性内視鏡用レンズ・ドローン用レンズ等

創出価値(アウトカム) ▶ P10

心豊かな社会の実現

- 感動を味わえる社会
- 安心に暮らせる社会
- 健康な社会
- 働きがいのある社会

持続可能な地球環境の実現

- 環境負荷ゼロ社会 (気候変動対応 / 地球環境の汚染防止)
- 限りある資源の有効活用 (資源の循環利用 / 水資源の保全)
- 自然共生社会 (有害化学物質削減 / 生物多様性保全)

信頼と持続的成長の基盤構築の実現

- 誠実な企業行動 (コンプライアンス)
- 責任ある調達活動 (人権の尊重)

ビジネスモデル (自社一貫通貫体制)

企画・研究開発からアフターサービスまで自社で担う「一貫通貫体制」がタムロンの特徴です。このシームレスなバリューチェーンに経営資源を適時・適切に投入することで、高品質かつ独創的な製品をスピーディーに生み出します。アフターサービスで得たお客さまの声を次なる企画へ反映させる「知の循環」により、世界中のお客さまへ「感動」と「安心」を届けるビジネスモデルを確立しています。



主要経営資本



主要経営資本	インプット (2025年)	企業価値における位置づけ (新価値創出・売上利益の拡大)	企業価値における位置づけ (資本コストの低減)	資本の強化に向けた 取り組み	アウトカム
人的資本	連結従業員数:4,977人 従業員 1人あたり 教育訓練費用:29千円 管理職研修受講率:98.4% 一般社員向け研修受講率:99.6%	<ul style="list-style-type: none"> 多様な人材の相互作用によるイノベーション創出 社内人材の最適シフトによるリソース最適化 	<ul style="list-style-type: none"> 役割・成果に基づく適正な評価・報酬制度による高生産性人材の増加 エンゲージメント向上に伴う生産性向上 法令遵守の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 企業理念・ビジョンの浸透と「目指す姿」の共有と共感 エンゲージメント向上に向けた取り組み強化 人材戦略の実行(個人・組織の活性化/カオナビの活用/職場環境の整備) 	<p>心豊かな社会の実現</p> <p>人と自然の 健やかな共生</p> <p>喜びと感動にあふれ、 安心して暮らせる社会</p> <p>経済的価値</p> <p>中期経営計画 『Value Creation26 ver.2.0』</p> <ul style="list-style-type: none"> 売上高 950億円 営業利益 205億円 営業利益率 21.6% EBITDA率 24%以上 ROE 16%以上 株主還元 総還元性向 60%程度 <p>社会的価値</p> <p>2050年目標 自社の事業活動における CO₂排出量ゼロ</p> <p>2026年目標</p> <p>エンゲージメント 高/準高エンゲージメント者の割合 30%以上</p>
知的資本	コア技術:光学技術・機構技術・電子技術・生産技術 研究開発拠点数:国内外2拠点 研究開発費:7,313百万円 多様なアライアンスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> R&Dにおける研究開発テーマの推進 アライアンスによる技術シーズの強化 全社視点での知財ガバナンス 	<ul style="list-style-type: none"> シミュレーション技術による設計品質向上、設計業務効率化 知財ミックスを活用した知的財産戦略の策定、実行 	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発人材の採用強化・育成 新たなアライアンスパートナーの探索による技術シーズのさらなる獲得 	
社会関係資本	製品・サービスの販売チャネル: [海外販社] 7拠点 世界約70の国・地域での販売 サプライヤー数:125社 顧客基盤:世界中の 写真ユーザーと数百家の企業	<ul style="list-style-type: none"> ビジネスパートナーとの連携による新たな価値の創出 お客さま・社会の共感を得る製品の提供 サプライヤーとの関係強化による安定供給 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なサプライチェーンの構築(環境、人権等への対応) 	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーとの対話強化 新たな顧客・取引先開拓による営業基盤強化 	
製造資本	生産拠点数: [国内]1工場(2拠点) [海外]2ヶ国、3工場 設備投資額:4,828百万円	<ul style="list-style-type: none"> グローバル生産供給体制 DXによる高品質・高効率生産 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なサプライチェーンの構築による供給リスクの低減 サプライチェーン全体の最適化を通じた安定したものづくり 	<ul style="list-style-type: none"> グローバル生産供給体制の強化による品質向上 省エネの推進による生産効率向上 サーキュラーエコノミーの推進による省資源化 	
自然資本	エネルギー使用量:866,000GJ (電力、ガス、太陽光発電)	<ul style="list-style-type: none"> 省エネ技術の創出 ネイチャーポジティブ市場への貢献、価値提供 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー使用量の低減に向けた省エネ活動 経済合理性を考慮した再生可能エネルギーの導入 リサイクルなどによる自然資本の効率的利用 廃棄物/排出物削減による環境負荷のミニマム化 	下記の取り組みによる持続可能な地球環境への寄与 <ul style="list-style-type: none"> 省エネの推進 廃棄物削減・リサイクルの推進 水使用量の削減・リサイクルの推進 生物多様性の保全 有害化学物質の削減・適性な管理 	
財務資本	総資産:106,046百万円 純資産:85,911百万円	<ul style="list-style-type: none"> 新規・成長領域への戦略投資の投入 規律ある投資管理による固定費の抑制 在庫圧縮やキャッシュ・コンバージョン・サイクル改善、手元資金の積極活用による資産効率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> 株主還元強化等による資本構成の改善 IR活動強化による株主資本コストの低減 適時・適切な情報提供による株主・投資家との情報の非対称性の解消 	<ul style="list-style-type: none"> 資本収益性の向上 最適資本構成による資本コスト低減 資本市場との積極的な対話 	

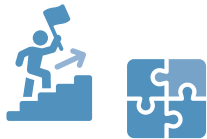
リスクと機会



当社はリスクと機会を多角的に分析し、適切な対応を通じて持続的な企業価値向上を目指します。新長期ビジョン「撮り、測り、つなぐ。人と自然の健康を創造する企業へ」の実現に向け、各リスク・機会に対する具体的な対応策を講じることで、強靱な経営基盤の構築と新たな市場価値の創出を加速させていきます。

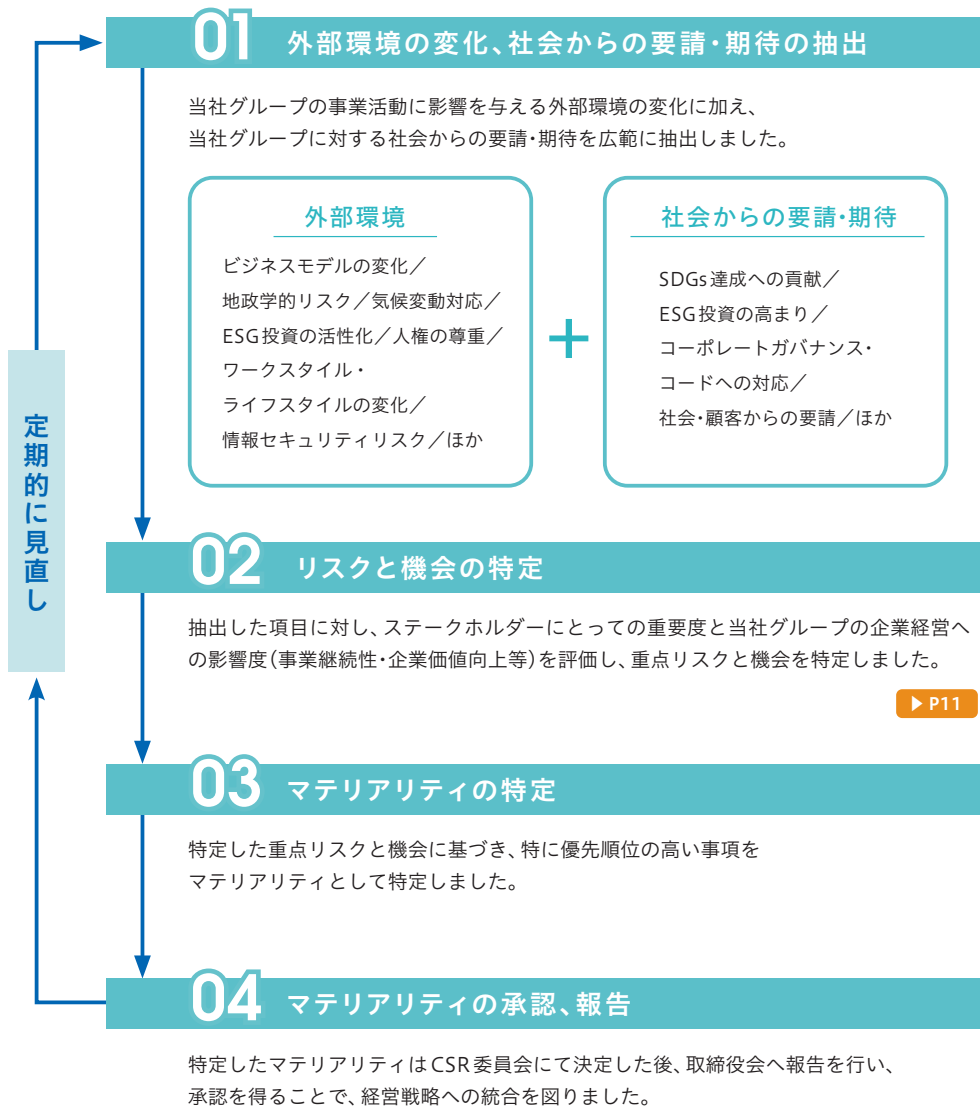
リスク・機会の発生要因	リスク	機会	時間軸			対応策
			短	中	長	
<ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラ市場の縮小 写真関連事業への依存 特定顧客への依存 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラ市場の全体的な縮小 写真関連事業、特定顧客への依存 	<ul style="list-style-type: none"> ミラーレスカメラ市場の成長 産業向けカメラ市場の成長 	●	●		<ul style="list-style-type: none"> ミラーレスカメラが主流となった市場環境を考慮し、対応する交換レンズの新製品投入を積極的に推進 監視・車載・医療等の産業向け・新規分野への事業拡大を図るとともに、既存顧客とのパートナーシップ強化と新規顧客開拓を並行
<ul style="list-style-type: none"> 急速な技術革新 	<ul style="list-style-type: none"> 先端技術の開発または製品への適用が予定通り進展しなかった場合の競争力低下 	<ul style="list-style-type: none"> 画期的な技術開発による成長機会の獲得 		●	●	<ul style="list-style-type: none"> 中長期的な技術ロードマップに基づく開発と知財戦略の強化、オープンイノベーションの推進による先端技術の早期適用
<ul style="list-style-type: none"> 新規事業への投資 M&Aなどへの投資 	<ul style="list-style-type: none"> 新規事業への研究開発投資や設備投資の失敗 	<ul style="list-style-type: none"> 強固な財務体質を活かしたM&A等への積極対応 新たな経営資源獲得による成長基盤の構築 		●	●	<ul style="list-style-type: none"> 社内リソースの柔軟なシフトと社外リソースの効率的な活用により、市場変化に即応した投資判断を実施 実施前における戦略・妥当性の多角的な検証と、実施後の定期的なモニタリングによる課題の早期把握・解決
<ul style="list-style-type: none"> 製品需給 	<ul style="list-style-type: none"> 製品の価格変動、過剰/過小在庫 硝子材料の調達不足 		●			<ul style="list-style-type: none"> 全社横断の在庫状況、見通しに関する会議を定期開催し適正化を図るとともに、複数購買や代替調達先の確保、設計変更による代替措置を早期に実施
<ul style="list-style-type: none"> 地政学的なリスク 	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな政治・社会・経済動向によって受ける様々な影響 		●	●	●	<ul style="list-style-type: none"> グローバルな政治・社会・経済情勢を定期的にモニタリング・分析し、企業活動への影響の把握・分析により、影響を最小化
<ul style="list-style-type: none"> 気候変動、地球環境問題 	<ul style="list-style-type: none"> 国内外の工場の罹災による生産活動への影響 炭素税や再生可能エネルギー購入費用負担 	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会への早期対応による受注機会の増加 省資源、省エネ、低炭素を実現する製品需要の高まり 		●	●	<ul style="list-style-type: none"> 「環境ビジョン2050」に基づくCO₂排出量削減を推進。あわせて、国内外拠点でのBCP(事業継続計画)の策定・継続的改善を実施
<ul style="list-style-type: none"> 人材確保 	<ul style="list-style-type: none"> 有能な人材の採用・確保の競争激化による新規採用や雇用継続への影響 	<ul style="list-style-type: none"> 優秀な人材の雇用による成長機会の獲得 	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 職種別採用制度、役割等級制度や社内公募制度等の人事制度を充実。ワークライフバランスやダイバーシティ推進による働きやすい職場環境の整備、健康経営の推進等を実施
<ul style="list-style-type: none"> 人権侵害への加担 	<ul style="list-style-type: none"> 人権侵害への直接、間接的加担による不買運動、法律違反による企業活動への影響 	<ul style="list-style-type: none"> 人権を重視した経営による企業価値の向上 	●	●		<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス委員会による方針決定と徹底した周知。法令遵守に加え、社会的規範に適合した公正な行動を実践
<ul style="list-style-type: none"> 交換レンズ事業特有のリスク 	<ul style="list-style-type: none"> カメラとのアンマッチングによる不具合発生 		●			<ul style="list-style-type: none"> 品質保証検査のさらなる充実を図るとともに、出荷済み製品に対しても無償のファームアップ等で迅速にサポート
<ul style="list-style-type: none"> 製品の品質と安全 	<ul style="list-style-type: none"> 製品の品質低下や欠陥によるブランド価値の棄損 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質製品の持続的供給の需要の高まり 	●	●		<ul style="list-style-type: none"> 品質保証体制を継続的に強化。品質不良発生時には迅速な対策と流出防止を徹底し、信頼維持に努める
<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ 	<ul style="list-style-type: none"> コンピューターウイルス等での情報システムの破損による企業情報や個人情報の流出 		●	●		<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティ体制の構築と、情報セキュリティポリシーに基づく厳格な情報管理・従業員教育を徹底
<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス 	<ul style="list-style-type: none"> 知的財産権侵害や贈賄をはじめとした法令違反や社会規範を逸脱した企業行動による企業価値の棄損 		●	●		<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス委員会の推進に加え、知的財産権の調査・交渉・申請を適宜行い、法的紛争を未然に回避

マテリアリティ



タムロングループでは、外部環境の変化にともなう中長期的なリスク・機会を検討し、当社が社会とともに持続的に成長するための事項を「マテリアリティ」として特定しております。特定したマテリアリティはCSR委員会にて決定した後、取締役会へ報告を行い、承認を得ております。マテリアリティは外部環境等の変化を踏まえ、今後も継続的に見直しを行ってまいります。

マテリアリティの特定プロセス



マテリアリティ

<p>感動と安心の創造</p> <p>創意工夫と技術力を結集し、安全と環境へ配慮しながら、お客さまから信頼される高品質な商品を提供することで感動と安心を創造します。</p>	<p>サステナビリティ重要課題 ▶ P36</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 製品品質・安全管理の強化 ● 持続可能なサプライチェーンの構築
<p>新しい光の創造</p> <p>光学技術の粋を究め、社会課題を解決できる製品を通して、持続可能な社会の実現を目指していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業による社会課題への貢献
<p>持続可能な地球への貢献</p> <p>「環境ビジョン2050」を軸に、全ての人々が生き生きと暮らすことのできる心豊かな社会の実現のために、「脱炭素社会」「資源循環社会」「自然共生社会」の実現を目指していきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● CO₂削減 ● 資源循環の実現・廃棄物の削減 ● 環境配慮設計 ● 有害化学物質の削減 ● 水の管理
<p>人的資本経営の推進</p> <p>個人・組織の活性化、個人・組織が最大限に能力を発揮できる制度・職場環境の整備を加速させていきます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 人材育成 ● DE & Iの推進 ● 人権の尊重 ● 健康経営の推進
<p>信頼と持続的成長の基盤構築</p> <p>リスク・情報管理を徹底し、ガバナンスとコンプライアンスを通じてより強固な経営基盤を構築します。透明性の高い情報開示と対話を通じて、持続的な企業価値の向上を追求します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンスの徹底 ● BCMの強化 ● 情報セキュリティの強化 ● ガバナンス体制の改善

ステークホルダーとの価値共創

タムロンは、全てのステークホルダーの皆さまと良好な関係を築き、持続可能な社会の実現を目指しています。光学技術を通じて「心豊かな社会」を未来へつなぐため、各ステークホルダーとの適切な協働と対話を重ね、独自の価値創出に取り組んでいます。

心豊かな社会



次世代・学生



お客さま



地域・行政

光を究め、
感動と安心を創造し、
心豊かな社会の実現に
貢献します。



従業員



取引先



株主・投資家



お客さまとの共創

写真愛好家の皆さま、産業分野のお客さまとの対話を通じたニーズ理解と製品開発への反映

カメラと写真映像のワールドプレミアショー「CP+(シーピープラス)」に毎年出展し、お客さまのニーズ理解、製品開発に活かしています。産業分野においてはお客さまの競争力向上への貢献に努めています。2025年は、株式会社デンソー主催「2025年度 取引先様感謝の会」において、品質やコスト、納期対応などの面でデンソー社の事業に貢献した取引先に贈られる「信頼賞」を受賞しました。



「CP+2026」タムロンブース 集客の様子

信頼賞受賞の詳細は ▶ P30



従業員との共創

多様な人材が、生き活きと挑戦できる環境を整備

施策の一例

2024年よりエンゲージメント調査を実施しており、「高/準高エンゲージメント者」の割合を2026年に30%まで向上させるべく取り組んでいます。



従業員の「食」と「対話」からイノベーションを創出する多目的拠点「TAMRON Square」開設

2025年
「高/準高エンゲージメント者」割合
25.5%



株主・投資家との共創

公平・正確・適時な情報開示の徹底と、建設的な対話を通じて中長期的な企業価値の向上を共創

株主や投資家の皆さまとの対話を通じ、相互理解を促進し、ご意見やご要望に真摯に耳を傾け、経営にフィードバックしています。

2025年12月期

●SRミーティング 約**10**社
●IRミーティング 約**200**社
(延べ対話社数)

機関投資家・アナリストを対象としたベトナム工場見学会も実施

株式の流動性向上による投資家層拡大施策として株式分割、自己株式取得を2期連続実施しました。

2025年末株主数
14,717名 (23年末比 約**3**倍増)



次世代・学生との共創

大学やスタートアップとの連携を通じたイノベーション創出、未来を担う次世代や学生との交流の実施

千葉大学大学院の深野祐也准教授、株式会社マブリイ等とともに、ネイチャーポジティブ分野への技術創出に向けた社内共創イベントを実施しました。また、全国の高校生が社会課題解決のアイデアを競う「SDGs QUEST みらい甲子園」埼玉県大会に参画しています。



イベントへの従業員の延べ参加人数約100人



取引先との共創

人権、地球環境問題に配慮した調達の実施

「タムロンサプライヤー行動規範」を全てのお取引先へ配布し、遵守を求めています。人権問題や地球環境問題を考慮したサプライヤー向けのSAQ調査を実施し、改善が必要なサプライヤーに対しては、改善活動を実施しています。

2025年調査により抽出された27社との間で「タムロンサプライヤー行動規範」の再確認と是正対策の完了を相互確認



地域・行政との共創

地域社会の一員として、文化振興と環境保全の両面から持続可能な地域づくりに貢献



第18回 一般の部 総合グランプリ【さいたま市長賞】作品

さいたま市やさいたま商工会議所、さいたま市教育委員会の後援を受け、「鉄道風景コンテスト」を18年連続で開催。鉄道・写真文化を通じた地域活性化に取り組んでいます。また、事業活動における環境負荷低減も地域への重要な責務と捉え、本社での継続した省エネルギー活動を推進。生産設備の運用改善や最新鋭機器への更新が評価され、2024年度の「エネルギー管理優良事業者等関東経済産業局長表彰」を受賞しています。

<第18回 タムロン鉄道風景コンテスト>
2025年 ●応募人数延べ **1,962**人 ●応募総点数 **7,308**点